

「ご命日」に向き合うこと、それは目の前のお一人と向き合うことです。そのことを大切に「ご命日に聞く」に取り組んでいきたいと思えます。

部長 義盛充香



悲しみを通して

出遇い直す

御門徒のmさん(69歳)は今年の8月16日、奥さまをガンで亡くされた。mさんはその悲しみをこのように語ってくださいました。

日馬 この度は教区の企画にご協力いただき有難うございます。色々世話になってるからこれくらいなんもだ。

日馬 有難うございます。早速ですが亡き人について色々教えていただきたいのですが。

m うん。結局はガンで死んだんだけども。

日馬 辛いですよ。大事な人が病気でいる姿みるのは。

m 辛かったね。まさか、あの日死ぬと思ってなかったからさ。

日馬 病気がわかってからもわりとお元気だったのですか。

m いや、だんだん弱っていった余命ないこと先生から聞いてたんだ。でも食欲はあったよな。

日馬 くわしくお聞きしても大丈夫ですか。

m 余命ないの知ってたから、できるだけ傍にいてなんでもしてやりたかったんだ。あの日すごく辛そうで傍にいて欲しいそうにしてたんだ。だけど俺、仕事休みなくてさ。こっちも体こわいもんだから心配だったけどすぐ帰ったんさ(病院から)。その日の朝だもん(亡くなった日)。悔い残るのが一番辛いわ。

日馬 そうだったんですね。

m そんななら泊まればよかったんだ(病院に)。まさか、あれ最後とは思わんもな。しばらく信じられなかったよ。

日馬 そうですよ。急に悪くなつたんですね。

m いや、急じゃないよ。悪いのわかってたんだ。でも、まだ明日も会えると思ってたんだ。だから全然実感なかった。だけどそのままにしとけんし、あちこち連絡してさ。市役所いくのに一人になって初めて泣けた。

日馬 誰かいると涙みせられないですよ。

m うーん。しなきゃならんこといっぱい実感なかったんだよな。一人になって死んだのかって思ったら悲しいって言うより後悔だ。なんで今日死んだんだって。一緒にいればよかった。手握ればよかった、声かければよかったって。

日馬 辛いですよ。

m 火葬前が一番みんな辛そうだったな。俺ももうこういう姿(生身の姿)で会えないんだって思うと辛かったね。でも住職(火葬場まで)ついてきてくれたしよ。ありがたかったな。骨拾うところには何かわからんけどほっとした気だったな。

日馬 お骨になった姿みて少し(死を)受け入れられたんですね。

m いやわからんけど(亡くなった)実感ないけど何かほっとしたな。

日馬 私が火葬場でお勤めさせていただいたことおっしゃってくださいましたが、大きな悲しみのなかで、お寺や僧侶がもつ役割を果たせてましたか？

m いや、住職にはきちんとしてもらえてありがたかったですよ。

日馬 そのこと(通夜葬儀など)がなにか安心させるような、効果あっていたら変ですけど、やっぱりお寺とか僧侶って意味あると思いますか。

m そりゃ、あるしよ。正直あいつ死んでから、ただ辛かった。どこにいても悲しかった。死んだんだなって考えては後悔ばっかししてたな。

日馬 こうしたかったとか、ああすれば良かったって思いますよな。

m そればっかりだったね。だからお寺とか仏さんの話聞くなんて思わなかった。金いからかかるとかかは思うんだけどな。

日馬 そうですよ。大きな悲しみのなかで仏さまの話聞こうとは、なかなかありませんよね。